

令和3年3月22日

教員各位

理事（教育・国際戦略担当） 阿部 浩 二
副学長（教育担当） 村松 正 和

令和3年度遠隔授業の準備に際して

本学の桜もほころび始め新年度を迎える時期となりました。教員の皆様は、シラバスを書き終え、新年度の授業に向けて準備をしているかと推察いたします。

昨年の今頃は新型コロナ感染の拡大が始まり、4月になり緊急事態宣言が発出され、入学式を取り止め、授業も全て遠隔授業に切り替えました。急遽組織された遠隔授業WGに授業実施方法のガイダンス等を実施していただき、皆様の努力により5月の連休明けからに遠隔授業を開始することができました。今一度、お礼を申し上げます。

このときには、とにかく「学びを止めない」ために遠隔授業を実施することが主目標であり、手探りで授業を進めていきました。

既にご存知かと思いますが、本学は新年度も今学期と同様対面授業と遠隔授業を並行して実施します。遠隔授業に関しては昨年度の経験を活かしてより良い授業にさせていただくことをお願いいたします。

授業実施の上で参考になるかと思い、昨年実施した学生への授業アンケートの中から、学生が不満を感じる典型的な案件と、その案件に対するコメントを記します。少し注意と考え方を変えるだけで、学生の不満を大幅に解消できると思います。それが学生の授業に対する満足度の向上につながりますので、参考にしていただければと存じます。

なお、非常勤講師の先生方へは、別途、教務課からメールを送信いたします。

1 質問への返信が遅い(ない)

特にオンデマンド授業において、そのような意見が散見されます。学生の質問に対して必ず返事をするよう、また、なるべく早く返事をするよう、心がけてください。ときに名前を名乗らないなど、常識的ではない形で質問してくる学生がいることは承知しております。その場合には(次の先生のためにも)質問の書き方から指導していただければ幸いです。

2 オンデマンド授業でフィードバックがない

オンデマンド授業は、ただ資料をおいておけばよいというものではありません。毎回の授業において、課題の提示と評価のフィードバックを行うことになっていますし、授業内容について学生が質問する手段を提供しなければなりません。適切に学生とコミュニケーションを取るよう、心がけてください。

3 リアルタイム授業で顔を見せるよう強制する

学生のプライバシーもありますので、学生に顔を見せるよう強制することは基本的には控えて下さい。ただし、授業において学生が顔を見せることが必要な場合には、その理由を最初の授業で説明するか、もしくはシラバスに記述するなど、あらかじめ学生に丁寧に説明することを心がけてください。

4 リアルタイム授業で出欠の取り方が厳しい

出席を取るときに、ネットワークの不調や生理現象で席を外していたなどの理由で欠席となってしまうことに対して、学生の不満が積もっています。様々な事情を考慮してもなお正当である場合に欠席をつけるようにしてください。

5 リアルタイム授業の録画を提供してくれない

基本的にリアルタイム授業は録画をし、後にその動画を学生に提供するようお願いいたします。何らかの理由があってそれができない場合には、あらかじめその理由を学生に丁寧に説明するよう心がけてください。もし、動画が外部へ漏れるのを好まない場合には、遠隔授業WGで開発された「ビデオ圧縮システム」を使うと、簡単に「リンクをたどると動画が見えるが、動画そのものはダウンロードできない」ようにすることができます。学期終了時に共有設定を解除すれば、以後その動画を学生は見ることはできなくなります。

6 教員側のネットワークが繋がらない／音声・画像が乱れる

現実にもそういう事例が多数報告されています。リアルタイム授業の場合には、授業の最初に自分の声が全員に聞こえているか、確認するようにしてください。また高速回線、カメラ、マイクなどの機器を常日頃から整え、ソフトウェアをアップデートし、安定的な運用を心がけてください。

7 教員が毎回遅刻する

Zoomによる会議の場合には時間ちょうどに開始するのが常識となっているようです。学生の遅刻に厳しい先生がいる一方で、教員の遅刻に関しても、学生の目が厳しくなっているようです。ご注意ください。

電気通信大学学務部教務課

TEL 042-443-5075

E-Mail:kyomusoumu@office.uec.ac.jp
